



# NEWS



## CONTENTS

・新年度のご挨拶 「利他行」

・副病院長・看護部長就任のご挨拶

・副病院長(経営担当)就任のご挨拶

職場環境改善・  
看護の質管理担当

## 副病院長・看護部長就任のご挨拶

副病院長(職場環境改善・看護の質管理担当)・看護部長 かわかみ としえ  
川上 利枝

2023年4月1日付けで、副病院長(職場環境改善・看護の質管理担当)・看護部長を拝命いたしました、川上利枝と申します。就任のご挨拶を申し上げます。

当院のためにご尽力いただいた前任の田中真美看護部長のあとを引き受けることとなり、重責に身の引き締まる思いです。

私は、島根県で生まれ、自然の中で伸び伸び育ちました。県内の高校を卒業後、岡山大学へ進学し、岡山大学病院で看護師として、4年間勤務いたしました。その中で、郷里である島根県の医療に貢献したいという思いが強くなり、当院への転勤を希望し、早や25年が経ちました。



医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、医療技術の進歩、及び医療提供の場の多様化等により大きく変わってきております。「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の理念のもと、看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」をあるべき姿とし、県内唯一の特定機能病院として求められる役割が果たせるように、多職種と連携を図りながら、前向きに努力していきたく思っております。

ご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新年度のご挨拶「利他行」

2021年4月に病院長を拝命してはや2年経過いたしました。その間、コロナ感染症をはじめとして、今まで我々が経験した事のない医療・社会環境の変化に対応しながら病院運営を行なってまいりました。多方面から、皆様方のご理解とご支援を賜りました事を深く感謝いたします。

さて、当院は1979年に島根医科大学附属病院として開設され、50年弱が経過しました。その間、病院再開を経て2013年にリニューアルオープンし(600床)現在に至っています。診療科のトップも2代目から3代目の教授へと世代交代の時期になっています。本年度は消化器総合外科、循環器外科、麻酔科のトップに新しい先生方を迎えることが既に決定しており、島根大学病院のチーム力を一層強化できるものと考えています。5月から高精度放射線治療に必要な先進機器を導入した放射線治療棟での治療が開始となります。また、小児脳神経疾患治療センターを設置し、小児科、小児循環器外科、小児外科と協働し島根県の小児医療体制の整備を強化します。高度化する医療に対しては、大学病院の総力を集約して発揮できるよう診療科を超えた横断的・柔軟な診療体制整備を目的に設置した「救急・集中治療調整管理センター Emergency and Critical Care Operations Center (ECCOC)」を中心に医療安全の向上と業務の効率化をさらに推進して参ります。

一方、当院の理念である「地域医療と先進医療の調和する病院」を实践する上で課題となる「医師の働き方改革」に対しては、病院組織として地域医療政策センターを立ち上げました。当センターでは島根県全体の医師配置や地域での医療ネットワーク構築など、島根県行政と連携しながら地域に勤務する医師の診療科・年齢の偏在を考慮し柔軟性のある医療提供体制の構築を支援します。医学部創設から50年弱経過した現在、未だ医師不足が深刻な地域や診療科偏在でご迷惑をかけている地域が存在します。これらは、押し並べて我々の力不足であり、大いに反省すべきところですが、大学病院の責務である医師派遣の前提となる優秀な医療人の育成のために、病院医学教育センターと地域医療教育学講座の協働による人材育成体制も整備し、少し先を見据えての大学病院の機能強化も行います。

島根県の地域医療に貢献できる人材育成を幅広く行い、患者さんに寄り添った形で、質の高い医療を提供して参りたいと思います。「安全・安心な最善の医療」を病院の総力として提供し、職員一人ひとりが一歩一歩着実に本質に向かって邁進し、地域に信頼され愛される病院運営をはかりたいと考えています。



病院長 しいな ひろあき  
椎名 浩昭

## 副病院長(経営担当)就任のご挨拶

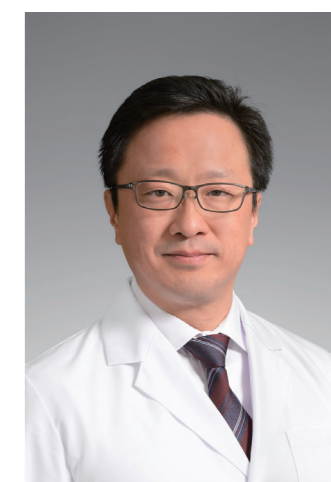
かなさき けいぞう  
内分泌代謝内科 教授 金崎 啓造

この度、4月1日より副病院長(経営担当)を拝命いたしました金崎啓造と申します。2019年7月に前職の金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学から島根大学医学部内科学講座(内科学第一)教授として就任しました。

2021年度からは、椎名浩昭病院長・田島義証副病院長の元、経営担当の病院長補佐を承り、大学病院における管理業務に関して経験させていただきました。

近年、医学の進歩は凄まじく、私が専門とする糖尿病や糖尿病性腎症、内分泌疾患などの内科診療でも日々進化しており、この先数年でさらに激変を遂げると考えられます。外科分野や癌治療、その他いずれの分野においても医療人が日々知識・技術のupdateを怠れば最先端診療を安全に実施することは不可能です。また最先端診療には最先端機器も必要であり、その更新も重要な課題です。それにも増して重要なのは全人的医療を行える医療人の育成と医療人が活躍できる職場の環境整備と考えます。

副病院長(経営担当)に関しては、人事・労務管理、広報、予算・会計、施設整備などを中心に大学病院における現在・未来の方向性に関して意見を取りまとめ提言する重要な立ち位置であると認識しております。未だ島根大学赴任後4年弱という未熟者でございます。大学病院が「地域の皆様の為にあるべき姿」と「職員にとって魅力ある職場」という両輪をしっかりと回せるように尽力して参りたいと思います。ご指導の程お願い申し上げます。





# ご報告

島大病院ニュース 2023年4月

島根発!

## 画期的ネジ形状を搭載した新型人工骨ネジ



整形外科 教授 うちお ゆうじ 内尾 祐司  
講師 いまで しんじ 今出 真司

骨折治療では、体内で次第に骨へと置換される素材で出来たネジも一部で使用されます。これを人工骨ネジと呼びます。このネジには抜かなくて良い、また、CTやMRIなどの画像検査を妨げないといった利点がある一方で、強度が低く折れ易いという弱点がありました。

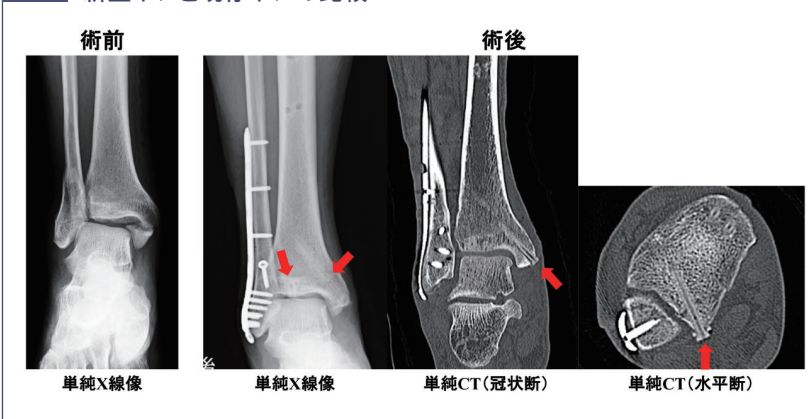
医療用ネジはネジ山(ネジのギザギザ)が高く、これは「常識」でした。しかしこの「常識」は意外と根拠に乏しく、これって本当?という臨床疑問から調べてみると、既存ネジほど高いネジ山は要らない事が判りました。この知見を基に2017年度から県の研究機関である島根県産業技術センターおよび人工骨ネジ製造販売企業である帝人メディカルテクノロジー社(大阪府)と共同開発を行いました。開発ポイントは3つあり、①低いネジ山、②逆傾斜ネジ山、③低頭、という点で既存ネジとは異なります(図1)。①と②により、既存ネジより3割程強度を増しつつ固定力を維持できます。また③により骨表面からの突出を抑えます。このような人工骨ネジはこれまで実例がなく、全く新しい画期的な医療用ネジです。

2021年6月に薬事承認され販売を開始し、これまで県内の医療機関で実臨床を重ねてきました(図2)。在庫や専用機材等と準備を終え、2023年度からは全国の主要医療機関へ販路を拡大します。島根発の人工骨ネジが多くの患者さんの治療に役立つ事を期待しつつ、更なる改良を目指し、私たちは日々研究を続けています。

図1 新型ネジと既存ネジの比較

	ネジ頭高さ(mm)	外径(mm)	内径(mm)	山高さ(mm)	ピッチ(mm)	改良点
新型ネジ Osteotrans Plus LRT	2.5	4.5	3.7	0.4	1.6	①内径拡大 ②逆斜 ③小型のネジ頭
既存ネジ Osteotrans Plus	4.0	4.5	3.2	0.65	1.6	

図2 新型ネジと既存ネジの比較



# ご報告

島大病院ニュース 2023年4月

## 新型コロナウイルスに対する新しい簡易・迅速中和抗体測定法の開発

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター 副センター長 うらの たけし  
生化学講座病態生化学 教授 浦野 健

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター及び病態生化学は、図1に示すような原理で、ウイルスを用いないで、短時間で簡便に中和抗体を測定する方法を、全世界のいくつかの研究グループと同様に開発しました。野生株ばかりではなく、デルタ株・オミクロン株など流行する変異株のスパイクタンパク質を用いることで様々な変異株に対応して正しい中和抗体を測定することができます。

中和抗体とは、新型コロナウイルスの場合スパイクタンパク質とウイルス受容体であるアンジオテンシン変換酵素2(angiotensin-converting enzyme 2、ACE2)というタンパク質との結合を阻害することができる抗体のことです。中和抗体はウイルスとウイルス受容体の結合を阻害するため、ウイルス感染リスクを減少させる可能性があります。したがって、特に医療従事者や基礎疾患保持者、高齢者等において抗体の中和活性能力を測定することは重要です。

ウイルスを用いた中和抗体の測定は、ウイルスを培養細胞に感染させる必要があるため、感染のリスクを伴うだけでなく、煩雑であり、特別な施設と時間のかかる測定法です。また、これまで実施されてきた抗体測定(図2)では、スパイクタンパク質に結合する抗体量を調べる事が可能で、測定された抗体量と中和活性の間には一定の相関が認められることも知られています。しかし、抗体の中にはスパイクタンパク質とACE2との結合を阻害しないものも当然含まれています。ウイルス感染に対する抵抗力の強さを正確に判断するためには、やはり中和活性を持つ抗体量を測定する必要があります。

本開発には、島根県の令和4年度技術シーズ育成支援事業の支援をいただきました。現在流行しているオミクロン株に対する中和抗体測定にご興味のある方は、ぜひご連絡ください。

図1 ウイルスを用いない中和抗体測定

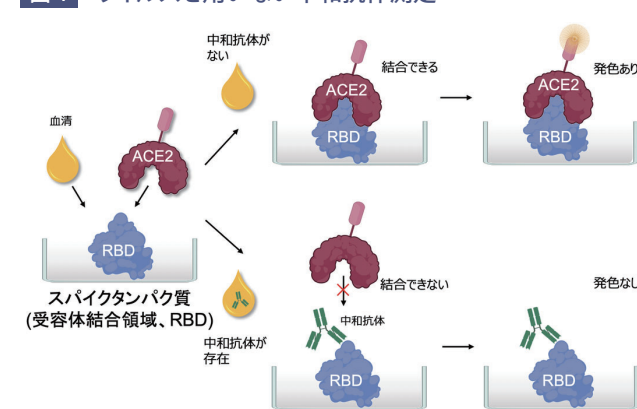
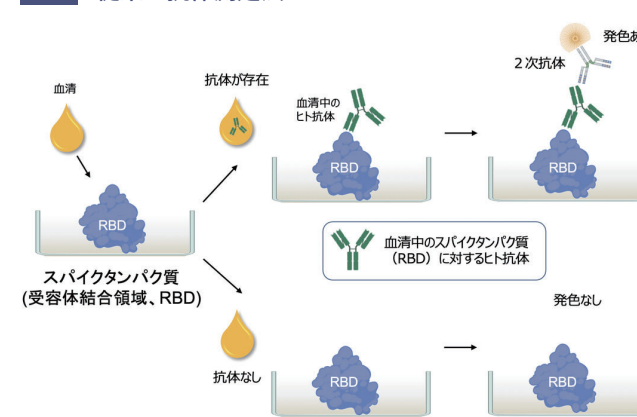


図2 従来の抗体測定法



問合せ先 生化学講座病態生化学 研究室 TEL: 0853-20-2127



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



# ご報告

## 新人看護職成長体験発表会 ～看護を考える大切な時間～

看護部看護教育支援室 看護師長 たけもと かずよ  
竹本 和代

毎年、看護部では、その年に入职した新人看護職成長体験発表会を行っています。

看護師の免許を取得しての1年目は、集合研修でシミュレータを使用して、患者さんにとっての安全で安楽な方法について学びを深め、かつ先輩看護師にも臨床の現場で教えてもらいながら段階的に多くの看護技術を習得していく濃密な1年です。

新人看護職は1年間の看護経験を振り返り、「私に関わった患者さんとの印象に残った看護エピソード」をテーマに、2月22日、27日両日に看護職員の前で成長体験発表会をしました。新人看護職が発表後、1年間の院内研修の様子および各部署の先輩看護職から新人看護職へのメッセージをスライドショーで上映しました。そして出身学校の先生方にもご参加いただき、メッセージを頂きました。新人看護職からは、「他者の発表を聴き、自分の振り返りになった」「同期の体験も共有することで看護観を深めることができた」「違う部署でどのような経験をしたか知ることができ、自分の今後の看護にも活かそうと思った」などの感想が寄せられました。

また、聴講した先輩看護職からも「新人看護師の皆さんの1年間の頑張りと成長を感じ、自分も初心を忘れず励んでいこうと思いました」「初心に戻って自分の看護を思い出すきっかけになりました」などの感想が寄せられました。

会場の誰もが新人看護職の1年間の頑張りを共有し「看護」について考え、思いを深め、改めて頑張っていこうと思える時間となりました。



発表の様子

## 新型コロナウイルス感染症対策の現状

感染制御部 副部長 はだの よしろう  
羽田野 義郎

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックから3年がすぎ、ワクチン、抗ウイルス薬などが使用できるようになり、その知見も積み重なってきました。

法律の変更があってもCOVID-19自体のウイルス学的特徴が変化するわけではありません。変えられるのは私たちのCOVID-19などの感染症に対する付き合い方だと思います。

科学的見地に基づき感染制御の見直しはなされていきますが、その前提としての手指衛生や場面毎の効果的な感染対策が1つのポイントとなります。

2023年3月13日から、マスクの着用は個人の判断によることが国の基本方針とされましたが、一方で医療機関内などはマスク推奨となっています。当院では国の推奨通り、引き続き院内でのマスク着用をお願いしています(図)。当院の方針にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

これは面会のあり方についても同様です。致死率は下がったものの、病院内にはご高齢の方、基礎疾患を有する方、妊婦の方など重症化リスクの高い方が多数おられます。またCOVID-19が院内で拡大すると医療提供に支障をきたす場合があります。感染リスクをゼロにするのは非常に難しいCOVID-19ですが、安全に面会を行うためにはマスクの着用同様、医療従事者に加え、患者さんやそのご家族のご協力が必要となります。体調確認をしっかりと行っていただき、もし体調が悪い場合、同居家族の方にCOVID-19の方がいらっしゃる方は申し出ていただく(控えていただく)などの変わらぬご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



院内に入るすべての皆様へ  
マスクの着用を  
お願いしています！



あなたを守りたい  
そして  
いまある医療を守りたい

島根大学医学部附属病院

成長体験発表会(2月22日)

成長体験発表会(2月27日)





島大病院ニュース 2023年4月

# お知らせ



## 地域医療と先進医療の調和を目指して ～今後の腎臓内科の取り組み～

腎臓内科 教授 かんだ たけし  
神田 武志

2023年4月より当院腎臓内科では新たな体制となりスタート致します。今後の腎臓診療ならびに研究を更に充実させて参りますのでお知らせいたします。

全国の慢性腎臓病の患者数は1,330万人(成人の約8人に1人)と推計されており、新たな国民病といわれています。慢性腎臓病が悪化しますと透析導入に至りますが、透析導入の原因疾患の第一位は糖尿病性腎症です。県内の行政担当者との協力し、内分泌代謝内科金崎教授とともにエビデンスに基づいた診療を推進し、島根県内の糖尿病性腎症に起因する透析患者数のさらなる減少を目指した診療体制を構築して参ります。糖尿病のみならず高血圧、肥満、脂質異常症などの生活習慣病、膠原病や尿路結石、前立腺肥大といった泌尿器科疾患まで様々な要因が加わり、慢性腎臓病は進展します。各科腎臓を専門とされている先生方との連携を深め、より一層の診療、研究の充実をはかるため The program for Integrated Kidney Research and Advance (IKRA) (統合腎疾患制御研究・開発プログラム) を発足致しました。内分泌代謝内科：金崎教授、総合診療科：牧石教授、泌尿器科：和田教授、膠原病内科：一瀬教授、臨床検査科：矢野准教授、鬼形医学部長、椎名病院長をコアメンバーとして腎疾患の診療ならびに先端的な研究を幅広い視野から推進して参ります。特に腎臓内科では慢性腎臓病、高血圧を中心とした高齢化対策に取り組む所存です。

地域医療に関しては、かかりつけ医の先生方との連携が必須です。健診センター、地域の先生方より慢性腎臓病の患者さんの紹介をうけ、各専門医、コメディカルでチームを形成し、二人主治医制として早期介入、集学的治療をすすめます。各医療圏ごとに腎臓専門外来を設置し、県内全体の透析導入予防をすすめます。隠岐諸島などの離島や山間部の腎臓病診療、とりわけ透析医療に関しては島根県立中央病院地域総合医育成科小田川部長がすすめていらっしゃるITを活用した医師-医療関係者間の遠隔相談、医師-患者間のオンライン診療と連携を開始する所存です。

当院の理念である地域医療と先進医療の調和を目指しまして、腎臓内科発展のため尽力して参ります。今後とも腎臓内科にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

問合せ先 腎臓内科 医局 TEL: 0853-20-2122



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年4月

# ご報告



2022年度第2回医療安全に係る外部監査委員会

## 2022年度 第2回 医療安全に係る外部監査委員会が開催されました

医療安全管理部

この外部監査委員会は、医療法施行規則に基づき、学長が設置しています。設置の目的は、医療安全に係る内部統制等が機能しているか医療安全管理の取組状況について外部監査を行い、必要な是正措置を含む助言や指導を実施する体制を構築するためのものです。この委員会は、特定機能病院の要件ともなっており2017年4月から設置され、年2回以上開催することが義務付けられています。委員の構成は、医療安全管理に関する識見を有する者2名、弁護士1名、医療を受ける者1名となっています。

今年度は第2回目、去る2月28日に開催され(写真)、以下の項目が確認されました。

- ① 新興感染症パンデミック時の病院機能、医療安全の維持確保について  
コロナ感染症入院患者へのアクセスが制限される状況下での急変・転倒・ナースコール対応のあり方、インシデントと注意義務との関連について意見が交わされました。
- ② 新たな医療安全対策の取り組みに関わる進展状況について  
患者誤認防止、転倒転落防止に向けた病院の取り組みの報告があり、高齢者の入院が多い医療機関であり、その対応策をきちんと取る必要があるとの意見がありました。
- ③ 2022年度のインシデントレポートの分析結果について  
インシデント報告の重要性を研修医時代に根付かせる必要があることから教育の必要性について意見がありました。

委員会に示された意見、内容については、医療安全管理部や各分野別の医療安全管理責任者で検討され、医療安全管理委員会を通して医療安全文化の構築を図りより良い医療が提供できるよう改善が進められています。



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

かかりつけ医を対象とした

## 「子どものこころの病気・発達障がい研修会」 参加申込のご案内

子どものこころ診療部 部長 たけたに たけし  
竹谷 健  
公認心理士 いとう てるたか  
伊藤 晃崇

子どものこころ診療部は、島根県内の子どものこころの診療体制の均てん化を目的として、かかりつけ医の先生方が、子どものこころの病気や発達障がいに対する診療技術を向上して頂くために、支援者研修のご案内および研修会の開催を行っております。

支援者研修では、国立精神・神経医療研究センターが毎年3回開催する『発達障害者支援研修』にご参加頂き（費用はこちらで負担します）、伝達講習をお願いしております。具体的には、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの支援、発達障害と不登校・ひきこもり、家族ネットワークなど、診療科を問わずかかりつけ医の先生方が必要とされるテーマに関して学べる機会となっております。

当部門が毎年2回開催する研修会では、県内の多職種の方を対象にして現場のニーズに即した内容の講演を行っております。2022年度は、学校で多動衝動性の高い子どもへ対応するために『キレる子どもと繋がる支援』および、島根県の外国人人口増加率に則して『外国にルーツを持つ子どもの発達段階別アセスメントと支援』について、それぞれ8月と2月に研修会を開催しました。

かかりつけ医の先生方には、Common Disease となった発達障がいに自信を持って対応して頂くために、引き続き支援者研修および研修会にご参加をお願い申し上げますとともに、県内の発達障がい診療の均てん化にご協力をお願い申し上げます。

令和5年度国立精神・神経医療研究センター『発達障害者支援研修』の詳細は下記 URL (QRコード) を参照ください。  
※第一回の申込期間は令和5年4月7日～27日となっております。  
[https://www.ncnp.go.jp/info/2023/seiken-kensyu\\_R5.html](https://www.ncnp.go.jp/info/2023/seiken-kensyu_R5.html)



問合せ先 小児科 子どものこころ診療部 TEL: 0853-20-2220



# ご報告

## 「早食い」は血糖値や食塩摂取量など 全身の健康に関連する

歯科口腔外科・口腔ケアセンター 教授 かんの たかひろ  
管野 貴浩  
講師 まつた ゆうへい  
松田 悠平

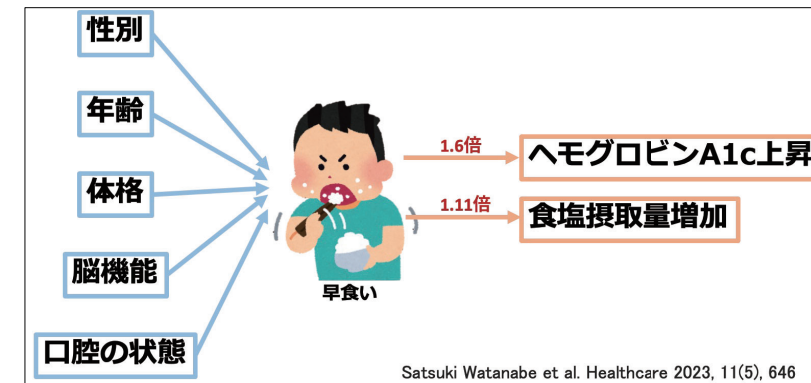
早食いはいけません!皆さんは子供のころから言われてきたと思います。

食事を短時間で終える、いわゆる「早食い」は糖尿病や肥満と関連していることがこれまで指摘されてきました。この食事摂取スピードを決定する要因には不明な点が多く、年齢や性別、体格、脳機能、社会環境など複数の要因が影響

していると考えられています。また近年では、口腔の状態（歯の数や口腔周囲の筋力など）や一口量（1度の捕食で摂取できる食物量）など歯科口腔領域の因子が関与しているとも言われています。しかし、これまで早食いと全身の健康の関連性に関する研究では、口腔の状況が考慮されていませんでした。

そこで島根大学地域包括ケア教育研究センター（CoHRE）との共同研究として、地域在住健康高齢者を対象とした口腔の状況を考慮したうえでの早食いと全身の健康との関連性に関する研究を実施しました。その結果、口腔の状況を考慮しても早食いはヘモグロビンA1c、食塩摂取量などと関連していることを世界初の知見として学術誌に明らかにしました（Watanabe S, Matsuda Y, et al: Healthcare 2023, 11(5), 646.）。

全国では食べ方の指導に特化した外来は一部の小児科や、歯学部附属病院などの限られた診療科で散見されるものの、ほとんどありません。これは早食いを決定する要因が多岐にわたるためです。早食いを改善するためには多職種での介入が必要と考えられており、当院の様な総合病院で指導できる場があることが望まれます。当科およびCoHREでは今回の知見をもとに、とくに島根県内の高齢者を対象とした新たな取り組みに発展できるかについて今後検討していきます。



問合せ先 歯科口腔外科・口腔ケアセンター TEL: 0853-20-2301





# お知らせ

島大病院ニュース 2023年4月



# お知らせ

島大病院ニュース 2023年4月

## 移行期医療支援を開始します

難病総合治療センター センター長 こんどう まさひろ  
近藤 正宏

医療の進歩により小児期発症慢性疾患患者の多くが成人期を迎え、成人期特有の病態が出現する患者さんが増えてきました。小児診療科と成人診療科には、診療体制だけではなく、患者さんとの関わり方や社会制度の違いなど様々な違いがあり、ライフステージの変化に伴って必要な医療や福祉の支援体制も変化するため、成人後も小児診療科だけで診療を続けることは、最良の医療を提供出来ていないといえます。そのため、近年移行期医療の重要性が指摘されるようになってきました。

当センターで昨年7月から移行期医療ワーキングを発足し議論を重ねた結果(写真1)、4月より移行期医療支援を開始できる運びとなりました。10歳を目処に移行期医療リーフレットを配布し、その後中学入学を目処に自律支援を開始し、高校卒業と共に成人診療科へと移行することを目指しています(図1)。また、今回のワーキングの大きな目玉の一つは医学生への参加でした。特にリーフレットの作成に関しては医学生が中心になって作成してくれており(写真2)、こうした病院のシステム作りに学生のうちから加わることが、将来の島根の医療は自分達が担うという気概につながっていくことを期待しています。

ワーキングは今後も継続し、更に充実した移行期医療支援体制になるよう努めていきたいと考えています。

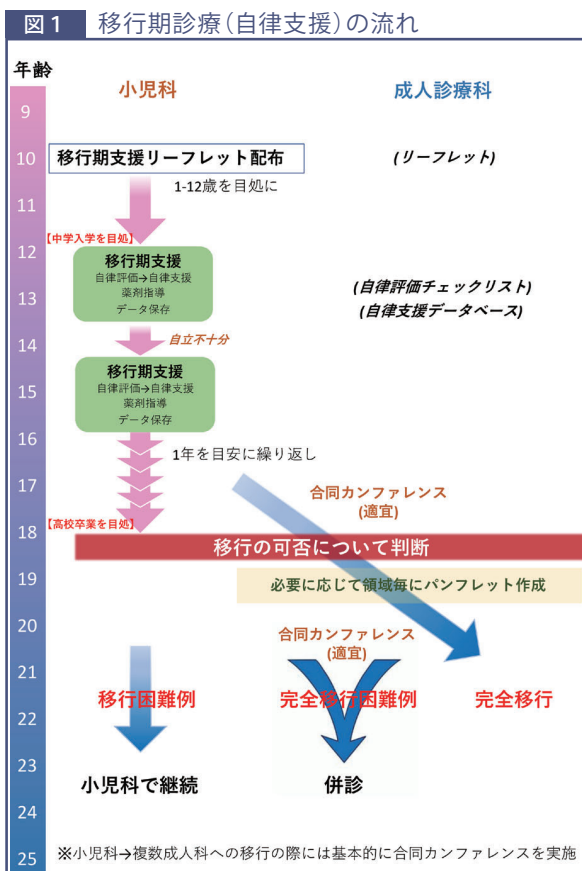


写真1 移行期医療ワーキングでは医学生、多職種の方と議論を重ねました



写真2 医学生が中心となりリーフレットを作成しました

問合せ先 難病総合治療センター TEL: 0853-20-2196

## クローン病の複雑痔瘻に対するアロフィセル治療を開始しました

ひやくどみ りょうじ  
消化器外科 助教 百留 亮治

消化器外科では、2021年9月に製造販売承認を取得したアロフィセルを用いた痔瘻の手術を2023年2月に実施しました。

クローン病は痔瘻を合併することが多く、複雑性で難治性であるのが特徴です。痔瘻は持続する疼痛や排膿など患者さんのQOLを低下させ、大きな負担となります。これまで痔瘻に対しては、seton法という外科的治療(痔瘻に細いゴムを通して排膿を促し、自然閉鎖を待つ方法)やクローン病に対する薬物療法による間接的な治療などが行われてきました。しかし、これらの治療が無効である場合、人工肛門が必要になる方もいます。

アロフィセルは同種異系脂肪組織由来の幹細胞懸濁液で、痔瘻局所において免疫調整作用と抗炎症作用を発揮することで痔瘻を閉鎖する直接的な治療法です。すべての方に適応できるわけではありませんが、強力な治療の選択肢がひとつ増えました。

今後、アロフィセルによって痔瘻の苦しみから開放される方がひとりでも多くなるよう尽力いたします。

問合せ先 消化器外科 外来 TEL: 0853-20-2384

写真1



アロフィセルは健康成人の皮下脂肪組織に由来するヒト間葉系幹細胞を単離・培養して得られる細胞懸濁液です。

図1



半身麻酔下にアロフィセルを原発口や瘻孔周囲に注入します。



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2023年4月

# ご報告



3月7日 島根県民会館でのライトアップ

## 「AYA世代のがん」啓発の ライトアップを行いました

小児科 教授 <sup>たけし</sup> 竹谷 健  
(島根県小児・AYAがん対策部会長)

「AYA (アヤ) 世代」という言葉を、ご存知でしょうか？ Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人) の略で、10代後半から30代の患者さんがあてはまります。このAYA世代のがんとして、乳がんと子宮頸がんが代表的ですが、他にも小児がんや高齢者のがんまで、さまざまな種類のがんを発症します。また、患者さんは高校生から社会人、子育て世代とライフステージが変化する年代であり、患者さん一人ひとりのニーズに合わせた支援が必要となってきます。

そんなAYA世代のがんを、県民のみなさんに広く知っていただき、理解を深めてもらいたいとの願いから、「AYWeek2023」のイベントの一環として、島根県小児・AYA世代がん対策部会と連携し、3月7日、8日の両日、島根県民会館のライトアップを行いました。「AYA」の文字は、部会のメンバーでもある20歳代のがん治療経験者の方に、作成していただき、通りかかった方が足を止めて写真を撮る姿も見受けられ、「AYAって何だろう?」と興味を持っていただいたようです。

今後も、県民のみなさんの理解が深まるよう、こうした取り組みを継続したいと思います。

問合せ先 **がん患者・家族サポートセンター** TEL: 0853-20-2518



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年4月

# ご報告

## ロボット支援直腸切除術の プロクター(手術指導医)に認定されました

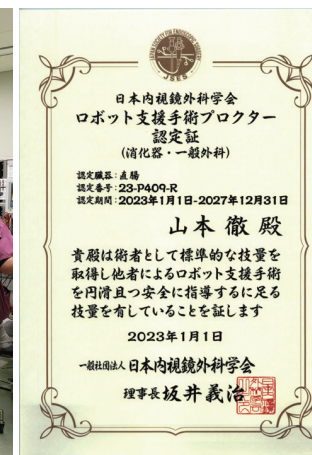
消化器外科 講師 <sup>やまもと</sup> 山本 徹

この度、日本内視鏡外科学会ロボット支援直腸切除術のプロクター(手術指導医)に認定されました。ロボット支援手術認定制度とは、日本内視鏡外科学会が円滑かつ安全なロボット支援手術の導入に寄与するよう制定したもので、術者として標準的な技量を取得し、他者によるロボット支援手術を円滑かつ安全に指導できる(プロクタリング)指導者(プロクター)を認定するものです。この認定を得るには、ロボット支援直腸切除術を40例以上経験することが必要で数年かかってしまうことが一般的です。当院では、2018年に第一例目のロボット支援直腸切除術を行いました。このたび無事に取得することができました。

この認定を受けることのメリットとしては、ロボット支援手術を導入する医療機関での技術指導などができるようになるため、新たな執刀医の育成が可能となることです。島根県では今までプロクターが不在でしたので、若い外科医がロボット手術を執刀医として行うことができませんでした。今回の認定を持って多くの外科医がロボット支援直腸切除術を行うことが可能となりました。

ロボット支援手術では、術者は擬似的な三次元空間で微細解剖を確認しながら手術を行うことができ、さらにロボットがカメラや多関節鉗子(人の手に近い動きのできる操作器具)の手振れを完全に制御するために精緻な手術が可能となります。これにより、従来から高難易度とされていた直腸切除術の手術の難易度を下げること、癌の根治性を向上させ、更には術後合併症の発生を抑制することが期待できます。

当グループでは、ロボット支援直腸切除術を約50例に行ってきましたが、ロボットに起因する合併症は認めず、術後合併症の発生率も従来の鏡視下手術と比べても遜色ない成績で、安全で確実な手術が行えていると実感しています。現在、ロボット支援手術は結腸癌にも適応が拡大されており、当院でも2023年上半期開始を目指して準備を行っている最中です。我々は、大腸癌領域においてもロボット支援手術が正確性・安全性の面で大きなメリットがある手術だと考えています。そのため、多くの患者さんに安全な手術が提供できるよう努力しております。ロボット支援手術のみならず、患者さんにとって最良と考えられる医療の提供を心がけておりますので大腸疾患でお悩みの方は当科まで遠慮なくご相談下さい。



問合せ先 **消化器外科 外来** TEL: 0853-20-2384



2023年4月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

